

避難の心得

状況に応じて避難しましょう



このマップで居場所の危険性を確認し、強い雨以上の場合は歩行での避難が困難になるので、早めに水が来ない場所へ避難しましょう。近くの川や他のため池にも十分注意しましょう。

浸水想定区域に注意しましょう



避難する場合は、ため池や河川の浸水想定区域に注意して避難しましょう。長靴は危険なので、運動靴等で避難しましょう。

迅速に安否確認をして避難しましょう



避難する際には高齢者などの逃げ遅れによる被害を防ぐために、タオル運動・無事ですシール・両隣声掛け運動を実施して避難しましょう。

防災アプリを活用しましょう



市では、避難所開設情報などをプッシュ通知で受け取ることができる防災アプリ「ハザードン」を運用しています。非常時に活用してください。

雨の強さと降り方（1時間雨量）

やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	強烈な雨
10～20mm未満	20～30mm未満	30～50mm未満	50～80mm未満	80mm以上
<ul style="list-style-type: none"> ●地面からの跳ね返りで足元がぬれる。 ●この程度の雨でも、長く続くときは注意が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ●歩行での避難が困難になる。 ●車の場合、ワイパーを速くしても見づらい。 ●側溝や水路、小さな川があふれ、道路冠水のおそれがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●車での避難が困難になる。 ●道路が川のようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●傘はまったく役に立たない。 ●水しぶきで、当たり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる。 ●多くの災害が発生する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●雨による大規模な災害の発生するおそれ強く、厳重な警戒が必要。

●強い雨になると歩行が困難になるため、ため池施設等の点検は強い雨になる前に終わらせておきましょう。

ため池管理のポイント

日常点検のポイント

- ①堤体の草刈を定期的に行い、漏水や亀裂の発見が遅れないように注意。
- ②ゴミ等が余水吐を塞いでいないか確認しましょう。
- ③取水施設は、ゲート開閉や巻上げハンドル操作の異常がないか点検しましょう。
- ④貯水・取水は徐々に行い、急激な水位変化とならないようにしましょう。
- ⑤基礎ブロックやネットフェンス等の安全施設を確認し、必要に応じて修理を行いましょ。
- ⑥大雨が予想される場合は、必要に応じて、排水路・余水吐の状況確認や水位調整を事前に行いましょう。



草刈の様子



堤体の亀裂に注意



堤体の漏水に注意



ネットフェンスの転倒

出典：大阪府「ため池管理の手引き-ため池管理者用（H25.5改訂版）」

緊急時の連絡先

大雨や地震のときなど、急を要するため池の異常に気付いた場合には、下記まですぐに通報を！

松原市役所 072-334-1550 松原警察署 072-336-1234 松原市消防本部 072-332-3102

【このハザードマップについてのお問い合わせ先】松原市 市民生活部 産業振興課 TEL：072-334-1550（代表）

尻池ハザードマップ

ハザードマップについて

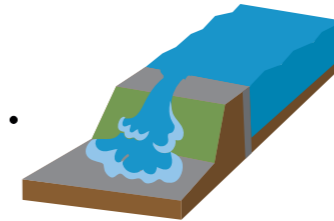
このハザードマップは、地震や大雨により、ため池が決壊した場合の浸水被害想定を分かりやすく住民の皆さんに提供して災害時の避難に役立てていただくとともに、ため池管理者の適正な維持管理にも役立てていただくことを目的に作成したものです。

- 日頃から家族やご近所で災害への対応について話し合い、家から避難場所までの経路を事前に確認しておきましょう。
- いざという時に落ち着いて行動できるよう、日頃から災害に関する正しい心構えを身につけておくことが大切です。
- このハザードマップは、ため池決壊による浸水被害のみを対象としています。災害発生時の状況を適切に把握できるよう松原市総合防災ガイドマップと一緒に保管しておきましょう。

こんなときは要注意

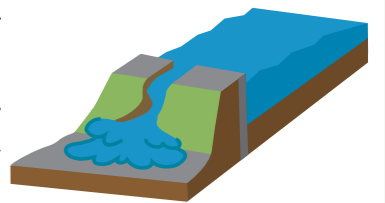
◆大雨のとき

大雨のとき、ため池の水位が上昇し堤防をのり越えた水の勢いによって堤防が浸食され、決壊することがあります。ゴミ等が余水吐の断面を閉塞させると、堤防を越流しやすくなり、浸食・崩壊の危険性は、一層高くなります。



◆大地震のとき

大地震のとき、ため池の堤防が異常な力を受け亀裂が生じることや、地盤の液状化により、決壊する危険性があります。比較的小さな地震でも、堤防の内部に生じた亀裂などにより強度が低下し、水圧に耐え切れず決壊に到ることがあるので注意が必要です。



ため池氾濫の特徴

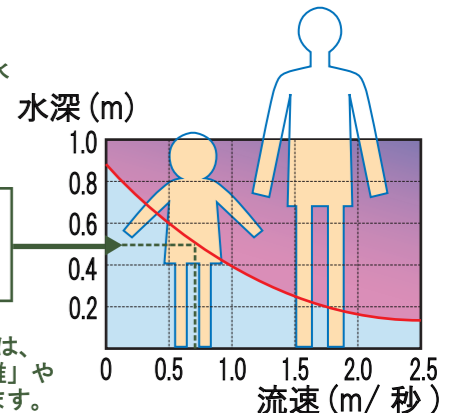
水深が深いほど、水の流が速いほど、歩行での避難は困難になります。

氾濫する水量はため池の貯水量のみ（※1）であるため、窪地でない限り水はすぐに引き、長時間の浸水はありません。しかし、ため池の水が一気に流れ出すため、決壊箇所周辺では急激な氾濫流が起こり、建物の倒壊や人が流されるなどの被害が発生するおそれがあります。氾濫流速が毎秒1.5m（時速5.4km：早歩き程度の速さ）以上になれば、歩行での避難は不可能であると言われています。

※1 ため池周辺地域に降った雨等の水量増加分は氾濫シミュレーションに反映していません。

例えば、0.5mの水深で歩行により避難可能な流速は約0.7m/秒まで（※2）

※2 この指標は成人の場合です。お年寄りや背の低いお子様の場合は、「歩行可能」の範囲でも「歩行困難」や「歩行不可能」になることもあります。



尻池決壊後の避難の困難度について

シミュレーションにより算定された各地点の歩行困難度です。「歩行不可能」「歩行困難」と判定された地点では、浸水する前の事前行動など状況に応じた避難行動が重要です。

